

利根川



VOL. 8

2000 7月号

利根川水系農業水利協議会
群馬県支部情報紙

編集・発行 利根川水系農業水利協議会群馬県支部
〒371-0837 群馬県前橋市箱田町350
027-251-4105

会員紹介コーナー

大正用水土地改良区



大正用水の計画は、一度は明治22年頃藪塚本町の伏島近蔵氏の発起により計画されたが、実施には至らなかった。
大正7年の大皇魁を契機に立案、計画され県議会で取り上げ実施が議決されたが、これも1年で3、4倍と議決予算が大幅に膨れ上がる事から大正12年には事業中止となった。
大正12年支那事变勃発、6年経過し大東亜戦争に発展した。国は、食糧確保の要請から大正用水実施に踏み切った。
昭和24年土地改良法が制定され、昭和26年『興亜大正用水耕地整理組合』を改組し『大正用水土地改良区』を設立した。大正時代に発起され、これらの経緯から『大正用水』と命名された。
事業実施は昭和18年に着工し、農地開発営団、国営移管、県営移管となり一応昭和27年3月完了した。又、昭和40年度から昭和52年度まで県営で水路改修し、平成元年度から平成11年度まで県営で農地防災事業を実施した。
計画面積2,336haに対する賦課金の滞納者もなく又、幹線水路約2.4km、支線水路約8kmの維持管理も適正に行っている。

板鼻堰土地改良区



板鼻堰は安中市板鼻の鷹之巢山麓の頭首工から碓氷・九十九両川の水を取り入れ、安中市板鼻、高崎市八幡町、剣崎町、藤塚町、上豊岡町、中豊岡町、下豊岡町を経て烏川に落水する延長約1.5km、灌漑面積約50haの用水路である。
この用水路は今からおよそ380年前の慶長年間中期から後期(1604年~1614年)に開鑿されたものと推定されている。
板鼻堰は戦前から戦後初期は約150haの灌漑面積を有し碓氷川下流部左岸の水田を潤してきた。また100年の歴史がある流水式養鯉についても豊かな水を活用し、年間200トンもの生産を上げていた。しかし昭和30年代の高度経済成長期を迎え、水田地帯の工業化、宅地化が急速に進み灌漑面積は最盛期の3分の1に減少し、この傾向は未だ進んでいる。また養鯉についても流通機構の整備された現在は海産物に押され生産量が半減している。
しかしながら安中市の東部、高崎市西部の市街地、工業地帯を縦貫する板鼻堰は農業用水、養鯉用水は勿論のこと防火用水、生活用水として必要不可欠の用水路であり益々その重要度を増している。
板鼻堰は老朽化した頭首工、余水吐、土砂吐等の各施設を改良し管理を容易にするため、平成7年度より農業用施設維持管理適正化事業を行い国、県の補助を含め総額5,340万円を費やして上記施設の改修や各ゲート操作の電動化を平成12年度をもって完了する。また水利権の更新問題についても国、県の助成を得て平成11年度に農業水利保全支援事業(900万円)を実施し、適正な水利権の確保について建設省と協議中である。
板鼻堰上流部では最近、用水沿いに蛍が舞い市民は堰沿いの道を散策し納涼を楽しんでいる。改正された河川法では河川と農業用水との調和など環境を重視した法の主旨が盛られているが、当改良区も理事長を中心に役員一同堰の維持管理に充分意を尽くし、農業の利水は勿論、市民に親しまれる改良区としての運営を計っている。

岡登堰土地改良区



岡登堰土地改良区の地域は群馬県東部の渡良瀬川右岸に展開する大間々扇状地で、江戸時代から明治時代前期に開発された水田地帯である。代官岡上景能（オカノボリ＝カゲヨシ）によって、寛文4年（1664年）～寛文11年に大間々町高津戸で岩盤を掘削し、隧道、開渠による導水路840m、三俣分水までの開渠4,100m、鹿の川沼までの開渠1,800mに及ぶ水路を開削され翌年通水したが、開削後間もなく下流の農民から利水に対する訴えがあり、景能は幕府から切腹を命じられ自刃し、水路は数年間で荒廃したと言われ、天保3年（1832年）の飢饉を契機として再興（明治6年（1873年）全面再興）が図られた。

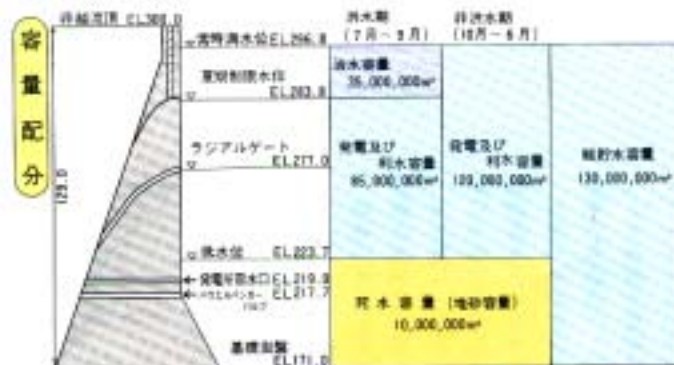
明治32年9月15日に「岡登堰普通水利組合」が設立され、用水施設等の維持管理を行い、昭和26年3月31日に「岡登堰土地改良区」に組織変更した。施設については国営渡良瀬川沿岸農業水利事業（昭和46年度～昭和59年度）によって造成された大間々頭首工から取水（最大取水量1.99m³/s、田1.01m³/s、畑0.98m³/s）し、岡登幹線水路4,872m（隧道986m、管路3,886m）を經由、三俣分水で鹿用水路1,056m（開渠20m、暗渠1,036m）に分水される。（受益面積、田268ha、桐生市・笠懸町・敷塚本町・太田市、組合員数、800人）

国営造成施設については敷塚台土地改良区・阿左美沼土地改良区と共に「渡良瀬川上流土地改良区連合」を昭和62年7月10日に結成し維持管理を行っている。

国営事業で旧開渠から管理に改修した管路上の水路敷を利用して「県営水環境整備事業（岡登用水地区）」が昭和63年度～平成7年度に実施され親水公園・遊歩道等の整備がなされた。また、現在は流域内の都市化等の進展に対応するため、「県営湛水防除事業（岡登地区）」が平成元年度から行われている。

群馬県内ダム紹介コーナー

下久保ダム



ダム諸元

管理者	水資源開発公団	流域面積(km ²)	322.88	型式	重力式 コンクリートダム
河川名	神流川	湛水面積(km ²)	3.27	放流設備	ゲート コンジット バルブ
貯水池名	神流湖	位置	群馬県多野郡鬼石町 埼玉県児玉郡神泉村	発電	下久保発電所 (県)

目的

洪水調節・不特定・発電・水道用水・工業用水

水に関するコーナー



必要なときのために ため池

人口が増えて、水田面積も広がると、必要な水の量も増えてくる。それに、川の流れから引いてくる水も足りなくなってくる時がある。自然の川の水量は、1年を通してみると、必ずしも必要なときにたくさんあるとは、かぎらないからだ。そこで、余った水をため、必要なときに使う「ため池」が作られるようになった。

ため池をつくるには、大地をほり、その土を運び、池のふちや底を水がもれないように固めたり、水があふれないように水量を調節したりと、たくさんの労働力と高度な技術が必要とされる。それでも、歴代の天皇やその土地のリーダーによって、たくさんのため池が作られてきた。

ため池は、今でも全国におよそ21万か所ある。とくに、雨が少なく日照りの害を受けやすい瀬戸内海沿岸や、大阪平野から九州北部にかけての西日本には、たくさん残っている。そして、今では農業用水としてだけでなく、公園や人々が水に親しむ場所としても、役立っている。



矢場池

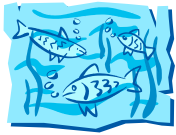
用語解説コーナー



河道外貯留施設とは

通常のダムが河川区域内に流水を貯留して水資源開発を行うのに対し、河道外貯留施設とは、河川区域外において河川の豊水を取水して貯留し、水資源開発を行う施設である。土地改良施設としては、普通河川等に設置するダム、調整池、ため池等の中に河道外貯留施設に該当する施設がある。

河川区域外に貯留施設を設ける水利用形態は、古来から水需給のひっ迫している地域において実施されており、河川上流部にダムを築造し、渇水時にかんがい用水を補給することと同様に、水資源の有効かつ効率的な利用方法であり、その観点から、河道外貯留施設の設置について、個別地区ごとに河川管理者と協議を行うことが、河川法改正後（平成9年）可能となった。



ふるさと水と土体験展



2000年7月25日(火)～8月6日(日)
日本橋三越本店7階催物会場・屋上

主催：全国土地改良事業団体連合会・都道府県土地改良事業団体連合会
後援：農林水産省・文部省・建設省・自治省・環境庁・国土庁・東京都・
東京都教育委員会・熊本県矢部町・熊本県土地改良事業団体連合会・
農業土木学会・JA全中・日本経済新聞社
協力：棚田学会・全国棚田(千枚田)連絡協議会・JA東日本



ふるさとに、水あり、技あり、感動あり

つうじゅんきょう たなだ かっぱ
水の道「通潤橋」・棚田・めだか・河童

迫力のジオラマや写真の展示、小さな生きものコナ、工作教室、ふるさと朝市など、親子で楽しめる特別企画いっぱい！！

～イベントでしか手に入らない珍しい地方物産の販売～

水の道「通潤橋」と田んぼの四季再現コナ
写真・絵で見るふるさとの原風景
めだかと出会おう！河童と出会おう！
「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展
親子で楽しむ工作教室～ワークショップ体験～
イベント広場
出現！屋上に三連水車
ふるさと朝市



入場無料！！家族みんなで参加しよう